

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成 28 年 2 月 25 日
主管学校名	愛媛大学附属高等学校
P T A 会長名	佐保 元彦

実施概要	主管校	愛媛大学附属高等学校	
	交流校	愛媛大学教育学部附属特別支援学校	
	実施活動名	「みかんの家」交流作業	
	実施日時	平成 28 年 2 月 11 日(木) 建国記念の日 10:00~13:00	
	実施場所	愛媛大学教育学部附属特別支援学校の日常生活訓練棟「みかんの家」	
	実施目的	愛媛大学附属特別支援学校にある農園整備を、特別支援学校の P T A 及び児童・生徒と、本校 P T A 会員・生徒が協力して行い、交流活動を通じて、特別支援教育に対する理解や啓発を図るとともに、両校 P T A 会員同士の親睦を深める。	
	実施内容	①竹林の手入れ ②農園の手入れ ③農園周辺の溝掃除 ④豚汁作り	
	実施方法	両校の保護者・教員・児童・生徒を 4 班に分け、作業交流を行う。作業終了後、全員で昼食をとりながら、交流を深める。	
参加人数	本校 P T A 会員及び交流希望生徒・教職員	計 37 名	
	特別支援学校 P T A 会員及び児童・生徒・教職員	計 54 名	
	マイスター倶楽部代表	計 1 名	

報告事項	内容	10:00 「みかんの家」集合 対面式 作業分担 10:15~ 作業交流 (①竹林の手入れ ②農園の手入れ ③農園周辺の溝掃除 ④豚汁作り) 12:00~昼食をとりながら交流 13:00 解散
	結果	<p>天候にも恵まれ、よい交流活動ができた。対面式のあと 4 つの班に分かれ、作業に入った。特別支援学校の生徒・児童と本校生徒は、自己紹介をした後、担当になった班で協力し合いながら、2 時間程度の作業を熱心に行った。保護者の方々や教職員は、作業に取り組むかたわら、両校の生徒・児童の交流がうまく進められるようにサポートした。その後は、慰労の意味もこめて参加者全員で昼食を共にした。生徒は、単に交流の楽しさを味わうことだけにとどめることなく、お互いの違いを理解し、尊重しながら、共に生きていくことの大切さを再認識したのではないかと考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">特支の児童と農園の手入れ作業</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">特支の生徒と竹林の手入れ作業</p>



周辺の溝掃除作業



豚汁づくり作業



昼食時での笑顔の交流

所感

「共に生き、助け合い、支え合う」ことの大切さを、実感できた行事であった。

両校の生徒・児童同士の会話は、当初ぎこちないものであったが、作業を進めるうちに、コミュニケーションも円滑になり、昼食時にはお互いの理解を深めることができた。

特別支援学校の生徒や児童との交流は、運動会や文化祭などの機会を通じても行われているが、本校生徒の中では、1年に一度のこの交流作業を楽しみにしている者も多く、人気のある行事である。ただ、例年女子生徒の参加が多いが、作業の中では力のいる仕事もあるので、今後は男子生徒の参加も積極的に呼びかけていきたいと考えている。

添付書類

参加感想・収支決算書・領収書

カンガルーシップ活動

共生プロジェクト参加感想

提出日	平成28年2月25日		
学校名	愛媛大学附属高等学校		
学年	2年	氏名	

- 私はこの活動に参加して主に二つのことを学びました。一つ目はしっかりと目を合わせて話すことの大切さです。目を合わせて話すことで、相手の子ども自分に話しかけられているのだと認識し、言葉を返してくれました。自分から目を合わせなければ交流することはできないので、しっかりとどんな人ともまず目を合わせて話していきたいと思いました。二つ目は「笑顔」です。どんな時も笑顔で話すことで、相手の警戒心を少しずつほぐしていくことができると思いました。障害を持った方だけでなく、外国人の方など、どんな人にも共通してつながることができるのは、「笑顔」だと実感したので、忘れないようにしたいと思いました。主にこの二つのことが印象に残りましたが、それ以外にも、特別支援の先生方の行動を見て、分かったことがたくさんあったので、将来に役立てるようにしたいです。障害のある子どもの親や兄弟、姉妹がその子の意思をしっかりと尊重して行動することが大切であり、駄目なことはしっかりと優しく厳しく注意する必要があると思いました。今回の体験を将来の仕事に活かしていけるようにしたいです。
- 交流を通して、支援学校の皆さんとより一層、関係を深められたと思います。私は木を切る作業を担当したのだけれども、思っていた以上に大変でかなり苦戦しましたが、先生方や支援学校の生徒さんと協力しながら作業できたのでよかったです。その後、支援学校の人と附属高校の生徒が作ってくれた豚汁は本当に美味しく愛情を感じました。特別支援学校の先生方ともたくさん話をすることができ、将来、支援学校の教員になりたい私にとっては、貴重な経験になりました。障害を持つ生徒さんとどう接しているか、トラブルがあったときはどう対処しているか、など様々な観点から見て学ぶことができました。自分も、障害を持つ子どもさんを支えていける立派な教員になりたいです。また、今回私が参加したこのような交流活動は、互いにコミュニケーションをとることで、お互いの存在を理解し合えるとても良い場だと感じました。このような活動がこれからも続くように、さらに増えていけばいいなと思いました。
- 今回はじめて「みかんの家」の交流作業に参加しました。どんな作業をするのか行ってみたいと分からなかったため少し不安で、でも楽しみでもありました。私は溝をきれいにする作業に参加しました。実際に溝に行くと結構な量の土と落ち葉があり、端には大きな石がありました。取り除いても取り除いても、減らない土や落ち葉と腰の痛みで大変でしたが、終わったときは、すがすがしい達成感を味わうことができました。食事の後片付けをしていると、支援学校の佐々木さんと斉藤くんがお菓子を配ってくれました。その量は手に収まらないほど。お菓子だけではなく、笑顔もこぼれ、温かい気持ちがいっぱいになりました。帰り際に、松長くんが「今日はありがとうございました。また来てください。」と、手をとって言ってくれました。すごく和やかですてきな時間を今日1日過ごしました。支援学校の人みんな明るくて、優しく、笑顔です。またこのような機会があれば参加したいです。
- 今日は初めて「みかんの家」の作業交流に参加したので、とても緊張しました。私は人見知りをするので、なかなか話かけることができませんでしたが、時間が経つにつれ、いろいろなことを話してくれるようになってとても嬉しかったです。私が木の枝を運ぶのに苦労していたときに、手伝ってくれたので、最初は驚きましたが、それを機にたくさん話せるようになりました。高校の授業では高等部の生徒さんとは関わらないので、小学部の児童と関わるのはとても新鮮で楽しかったです。最初の30分くらいは全く話せませんでした。でも、しゃがんで視線を合わせ、笑顔で話しかけていると、作業が終わるころには、ゆうくんからたくさん話しかけてくれるようになるまで、仲良くなれました。お昼はゆうくんとその家族(姉妹)と一緒に食べました。学校のことや、友だちのこと、休日は何をしているかなど、いろいろなことを話しました。ゆうくんの姉妹とも打ち解けることができ、別れるときはとても寂しかったです。私は課題研究で特支について研究したいと思っているので、今日分かったことを大事にしていきたいです。
- このみかんの家での交流に参加するのは今回で2回目であったが、とてもいい経験になった。昨年は中学生の方と一緒に作業を行ったが、今年は小学1年生の子と一緒に作業を行った。特別支援の先生が2人くださったが、やはり小学1年生なので、言葉を選ばなければならず、どう自分が言いたいことを伝えるか、どうやって接していいかわからず、最初はとまどっていた。しかし、明るい先生方のおかげで途中からは一緒に楽しく作業をすることができた。作業中は、その子が楽しみにしていた「豚汁」の話をずっとしていた。私もいつの間にか楽しみなって、「豚汁」という言葉を聞いただけで、とても頑張れた。小さなことだが、何か目標を見つければ人は努力できると、あらためて分かった。今回の交流は、将来につながるいろいろなことを考えることができた。また参加したい。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成28年2月25日
学校名	愛媛大学附属高等学校
氏名	保護者

- 今回初めて特別支援学校との交流活動に参加させていただきました。どのような作業を行うのか不安はありましたが、とてもよい経験をさせていただいたと思います。本校の生徒たちが、特別支援学校の生徒さんたちと協力して作業を通して、積極的に交流している様子を見て、子どもたちの持っているたくましさや可能性を再発見できました。私自身は施設周辺の溝の掃除を担当したのですが、思ったより土や枯れ葉がたまっており、多少手強い場面もありました。しかし、掃除し終えた時には、子どもたちと普段は余り感じる事のない、ささやかではありますが、満足感を分かち合えたと思います。最後に全員で食事を共にした時、皆笑顔で会話を楽しむことができました。ありがとうございました。
- 一つの目的に向かって、みんなで力を合わせて取り組む姿は、とてもすばらしいと感じました。対面式の時には附属高校と特別支援学校とお互に向き合って行われ、見た目にも明らかに距離がありましたが、最後にはその距離は縮まり、何の垣根もなく交流ができました。作業を共にする中で、自然と体が動き、言葉を掛け合い、話をし、お互いを理解し合っていくこのようなプロセスが、子ども達の成長につながっていくのだなと実感しました。私は竹林の伐採を行いました。女子の生徒はのこぎりの扱い方に苦労していました。そんな中でも、特別支援学校の生徒さんと助け合いながら、楽しそうに作業する姿をほほえましく思いました。教室の中だけでなく、このような交流も大切な学習活動になると思います。すがすがしい気持ちになれた大変良い一日でした。
- まだまだ寒い日が続く時期でしたが、当日は天候にも恵まれ、少し汗ばむほどの陽気でした。今回で二度目の参加になります。昨年と同様に大変有意義な時間となりました。交流をしながらの活動で身も心もほぐれていき、生徒さんたちも保護者同士もお互いをよく知ることができたのではないかと思います。食事では特別支援の先生や保護者の方とその子どもさんといろいろな話ができよかったです。お互いを尊重しながら共に生きていくことが大切で素晴らしいものだと思えました。このような活動が年に1度しかないのは少々寂しい気はしますが、また機会があればぜひ参加したいと思います。
- 「共生」や「相互理解」というと難しいことのように考えがちですが、今回の交流活動を通して、実は意外と簡単なことなのではないかと思いました。子どもたちと一緒に作業をする中で、お互いに協力して一つの目標に取り組んでいくことで、自然と相手を理解できていくのだと感じました。また、今回は特別支援の保護者の方とお話する機会にも恵まれました。子どもを思う親の気持ちというのは当然のことですが、誰しも同じだと思います。私も今回の交流作業を通じて、あらためて、子どもにいろいろな経験を積み、成長をしていって欲しいと願いました。
- 対面式の時に、PTA会長さんが参加者全員に向かって、本日の目標として、「食事の時には、距離を縮めて一体になれるように頑張りましょう」と言われました。会長のことば通り、作業後の昼食の場では完全に「距離」はなくなり、参加者全員の笑顔と話声で充ちていました。この交流が成功であったことを物語る風景であったと思います。単純な作業でしたが、特別支援の生徒さんに、なるべく声かけをして、工夫しながら作業を進めました。うまく距離が縮められるかどうか不安でしたが、将来、特別支援教育に携わりたいという生徒もいて助けてくれ、心強い思いでした。本日1日の経験は私にとっても非常によい刺激になりました。また、参加したいと思います。ありがとうございました。